

竹田市(九州・沖縄ブロック)

【計画期間 平成27年7月～令和3年3月】

- ・竹田市は、九州のほぼ中央に位置した中山間地であり、大分県一の流路延長を持つ源流を有するなど、自然豊かな地理的特性を有している。
- ・中世に緒方三郎惟栄が源義経を迎え入れるために築城されたとされる岡城の城下町を基盤とし、奥豊後の中心地として発展する。
- ・大正時代には、大分―熊本間を結ぶ重要な交通網が市を中心に整備された。
- ・人口23,570人、面積477.59km²(平成27年3月現在)

【中心市街地を巡る状況】

- JR豊後竹田駅から岡城跡入口までの間に形成された城下町を中心に、城下町の面影を残す商業地や公共施設等の都市機能が集積。
- 市街地の拡大・外延化に伴う人口の空洞化、郊外への大型店舗の立地等により、徐々にその求心力を失いつつある
- これからの城下町再生に向け、計画的なまちづくりを進めていかなければならない局面を迎えている。

【中心市街地に関する指標の推移】

- 区内年間観光客数
H20:194,442人 → H25:188,066人 (▲6,376人、▲3.3%)
- 区内居住人口
H22:1,382人 → H26:1,269人 (▲113人、▲8.2%)

【活性化に向けたテーマ】

- 「城下町の風情が五感に響く“竹田情感まちづくり”」

■計画の目標

目標	指標	基準値	目標値
観光地としての魅力の向上	区内観光客数 (人/年)	188,066人 (H25年度)	210,000人 (R2年度)
まちなかの回遊性の向上	区内歩行者 通行量 (人/日)	3,219人 (H25年度)	5,362人 (R2年度)
まちなか居住の推進	区内居住人口 (人)	1,269人 (H26年度)	1,274人 (R2年度)

観光地としての魅力の向上

- 【主要事業】
- ・瀧廉太郎記念館改修事業
 - ・竹田城下町・岡城跡歴史文化交流センター整備事業
 - ・商店街まちの駅整備事業
 - など

まちなかの回遊性の向上

- 【主要事業】
- ・街なみ環境整備事業
 - ・伝統的建築物改修事業
 - ・竹田市コミュニティセンター(仮称)整備事業
 - ・福商連携のまちづくり推進事業
 - など

まちなか居住の推進

- 【主要事業】
- ・空き家改修事業
 - ・空き店舗活用チャレンジショップ活用事業
 - ・老朽危険空き家等除去促進事業
 - ・定住促進住宅整備事業
 - など

竹田市中心市街地活性化基本計画の事業概要

観光地としての魅力の向上

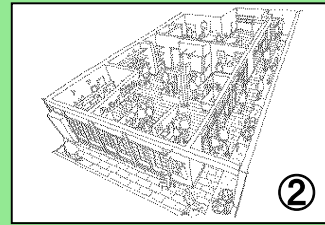
①瀧廉太郎記念館改修事業

かつて瀧が居住していた家を活用した記念館をリニューアルすることにより、地域住民や観光客の満足度向上に寄与し活性化に繋げる。



②商店街まちの駅整備事業

空き店舗を改修し、「街のフードコート（仮称）」等を整備することにより、商業地の賑わい回復を図る。



商店街まちの駅整備事業イメージ

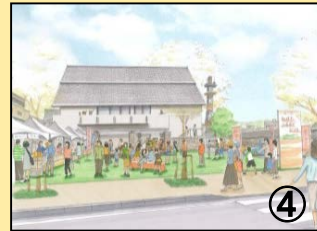
③竹田城下町・岡城跡歴史文化交流センター整備事業

竹田市の古文書や資料等を展示し、地域住民や来訪者が観覧する施設の歴史資料館をリニューアルすることにより、城下町の魅力向上を図る。

まちなかの回遊性の向上

④竹田市コミュニティセンター（仮称）整備事業

観光交流機能を導入し、城下町観光の拠点として整備することにより、交流空間の形成に寄与する。



竹田市コミュニティセンター（仮称）整備事業イメージ

○街なみ環境整備事業

城下町の街なみを形成する民家や店舗の修景補助を行うことで景観形成の向上を図り、観光客の増加や快適な居住環境向上に繋げる。

まちなか居住の推進

○定住促進住宅整備事業

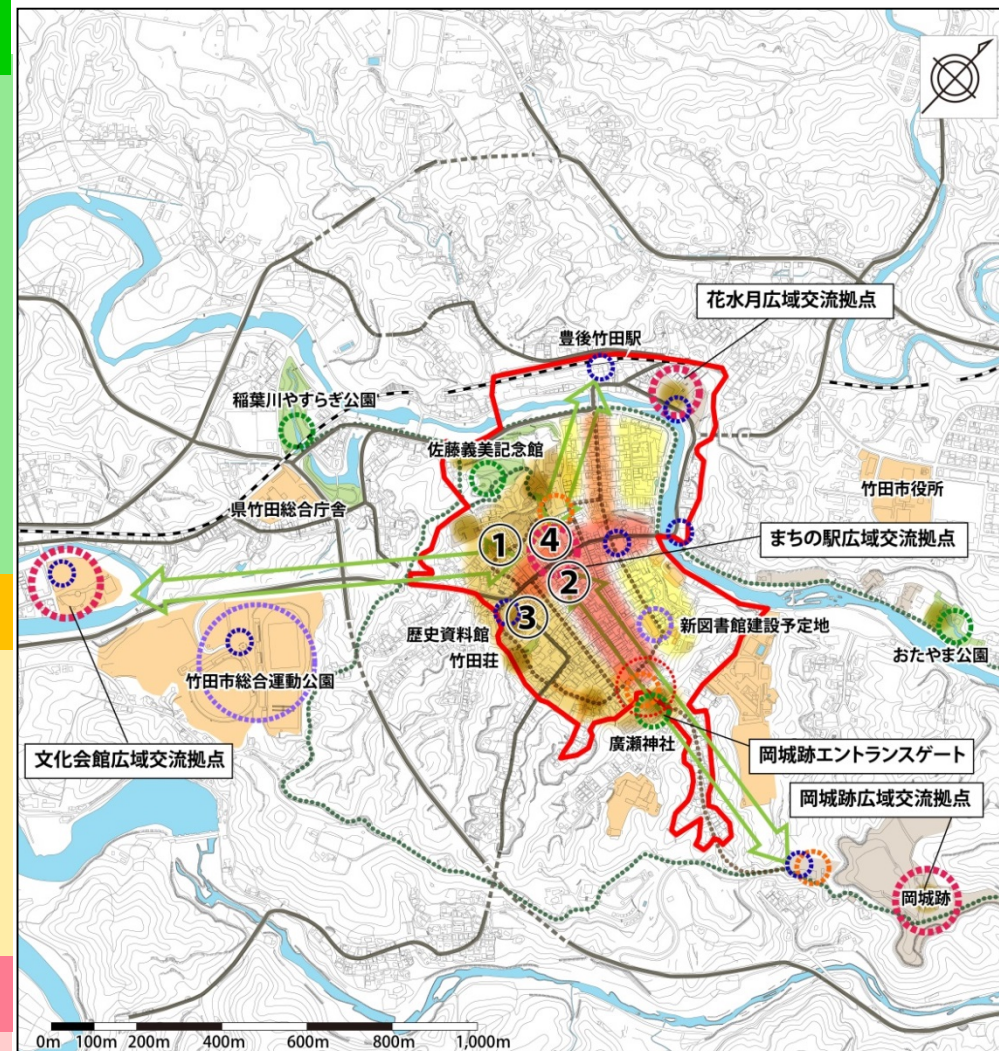
子育て世代や周辺部の高齢者世帯、域内就業者、移住者等を対象とした地域優良賃貸住宅の整備を行うことにより、地区内居住人口の増加を図る。

○空き家改修事業

アーティストなどの創作の場（工房など）として城下町の空き家や空き店舗を改修することにより、魅力的な中心市街地の再生に寄与する。



空き店舗活用チャレンジショップ活用事業イメージ（市内事例）



凡 例	
	広域交流拠点
	エントランス拠点
	ふれあい交流拠点
	地域交流拠点
	視点場・憩い空間
	交通エントランス
	機能連携強化軸
	歴史回廊軸
	自然回遊軸
	賑わい創出ゾーン
	エントランスゾーン
	歴史文化情感ゾーン
	まちなか居住推進ゾーン
	歴史・観光資源